

森の駅構想

服部久美子

森の駅構想とは、森で人が生きていくための術、森と人とのよい形での関わり方を、学び、そして実践して模索していく場所を、作っていく構想のことです。

森に入るために必要な装備は？この森はどんな森？森の中での危険は？など、森に入る為に必要な知識や技術を学び、森、というフィールドを活かして実際に体験することで、森を知る 森で遊ぶ 森との関わり方を考えて実践していける人材 = 駅員候補を育てることが目的です。森に継続的に関わるためには、その森独自のルールを知ることからはじまります。そしてそれは、書物やインターネットでは感じられない、『生きている現場』に、足を踏み入れ、感じることからはじまると思います。

そのため、森の駅では、各現場の特性を活かした体験型のフィールドメニューを、大きく3つの部門に分類して、詰めていきたいと考えています。

イントロダクション【基本の学び】：森に入るときの装備や心構え、この森でのルールを知ります。

1. 【整備メニュー】：刈払い機、チェーンソー、ノコ、ナタなどの道具の手入れの仕方、また、実際の現場での作業体験を通して、現場に応じた道具の使い分けなどが学べるように段階を踏んだメニューを作りたいと思っています。実際の体験としては、
 - ・下草刈り
 - ・倒木処理、などが主になると思います。
2. 【自然体感メニュー】：実際に森に入って、森の中で遊び、また、森を感じることでできる体験メニューを、と考えています。具体的なメニューとしては、
 - ・ネイチャーゲーム体験
 - ・地図読み体験、山の中でのサバイバル、などを主軸にできればと思っています。
3. 【調査系メニュー】：実体験できるフィールドを持っていることは強みです。そしてその現場を知っていくことは、今後の利用の展開にもつながります。
 - ・立ち木調査体験や、痕跡調査体験などはフィールドワークを実践する上では必須の経験となるため、興味があってフィールドでの経験を積みたい人などのニーズに応えられると思っています。また、これらの調査体験で収集したデータを保存しておく、長い目で見れば、定点観測データとして、その森の遷移などを知ることにもつながり、自分達はもとより、後世の人にとっても、貴重な資料となるはずです。



森と人が遠くなってしまったと言われる今、森とどのように関わったらいいのかわからない人が多くいると思います。どこの山に入ったらいいの、どのようにして入ったらいいのかわからないのです。

森の駅は、このように森との接し方がわからない人に、森への入り方を教え、そして今の森を知り、自分に何ができるのかを考えてもらえるような場所にしたいと思っています。そうして、森と関わるができる人 = 駅員を育て、森のことを真剣に議論してメニューを作っていく、その森の駅メニューへの参加者が、『自分が森にできること』を、何かひとつ継続的に実践できるような仕組みを作る、そこを目指したいと思っています。